

あとがき

本論文は、西ドイツ人のベーター・フィッシャー君のドイツ語による論文を翻訳したものである。これは、現在、ハンブルグ大学の教師として仏教学および日本の近代仏教思想史を研究しているフィッシャー君が、西ドイツの日本学会で発表した研究論文である。たまたま彼が近現代日本仏教とくに日蓮系の仏教思想（田中智学、石原莞爾、妹尾義郎など）に興味を持ち、その研究に没頭するようになってから、私の論文などを参考にされたことから、学問的に交流する友人として親しく交友する因縁が結ばれ、その結果として、本論文を「現代宗教研究」に掲載させてもらうこととなった。

今回の論文は、宗教法に関することが中心になっているが、外国人でこれだけ日本の宗教法を論じたものは極めて稀であるといわなければならぬ。もちろん、内容に問題点がないとはいえないが、それらについては読者から、遠慮のない批判が期待されるし、筆者もそのことを心から希望すると述べている。

こうして「現代宗教研究」が国際的な雑誌としても成長して行くならば、七百遠忌を境として、いちだんと飛躍することを願っている宗門にとって、重要な役割を果たすことになるであろうことは疑いの余地がない。

（現宗研前所長・顧問 中濃教篤）